

(お知らせ)

省エネ事例部門
ZEB・ZEH分野
新築庁舎での
受賞は全国初！

令和4年12月20日
京都市行財政局
担当：総務部庁舎管理課
電話：075-222-3965
京都市都市計画局
担当：公共建築部公共建築建設課
電話：075-222-3652

京都市役所分庁舎が 令和4年度省エネ大賞を受賞しました！！

令和4年度省エネ大賞において、京都市役所分庁舎が「省エネルギーセンター会長賞（省エネ事例部門、ZEB・ZEH分野）」を受賞しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1 受賞案件

「地産エネルギーを活用した KYOTO-STYLE ZEB 庁舎の実現」
(京都市役所分庁舎)

2 受賞種別

省エネ事例部門、ZEB・ZEH分野
省エネルギーセンター会長賞

3 受賞者

株式会社日建設計
株式会社日建設計総合研究所
三建設備工業株式会社
アズビル株式会社ビルシステムカンパニー
京都市



4 受賞概要

- ・ 地産エネルギーを活用する環境配慮技術、景観と調和する環境配慮技術という2つの技術を融合させ、京都ならではの ZEB（“KYOTO-STYLE ZEB”）庁舎の実現を目指した。
- ・ 特徴は、京都に豊富に存在する井水や木材、太陽熱等の地産エネルギーを活用した熱源システムと、放射空調や露出型段ボールダクトにより建物高さを抑える等の景観配慮の工夫を組み合わせ、省エネ化を図った。
- ・ 令和2年一年間の一次エネルギー消費量実績は、397 MJ/m²/年（平成28年省エネ基準比68%減）となり、実績値として ZEB Ready を達成した。

5 その他

- ・ 一般財団法人省エネルギーセンターのホームページにおいて、同日に、受賞に関する記事が掲載されています。

URL: <https://www.eccj.or.jp/bigaward/item.html>

- ・ 令和5年2月1日（水）に、東京ビッグサイト・レセプションホールにおいて、表彰式が執り行われる予定です。

（参考1）省エネ大賞概要

一般財団法人省エネルギーセンターが主催（経済産業省が後援）する表彰事業で、事業者や事業所等が実施した他者の模範となる優れた省エネ・脱炭素の取組や、省エネルギー性に優れた製品及びビジネスモデルを表彰するもの。本市の取組は、省エネ事例部門、ZEB・ZEH分野において、省エネルギーセンター会長賞を受賞。

（参考2）ZEB（Net Zero Energy Building）とは

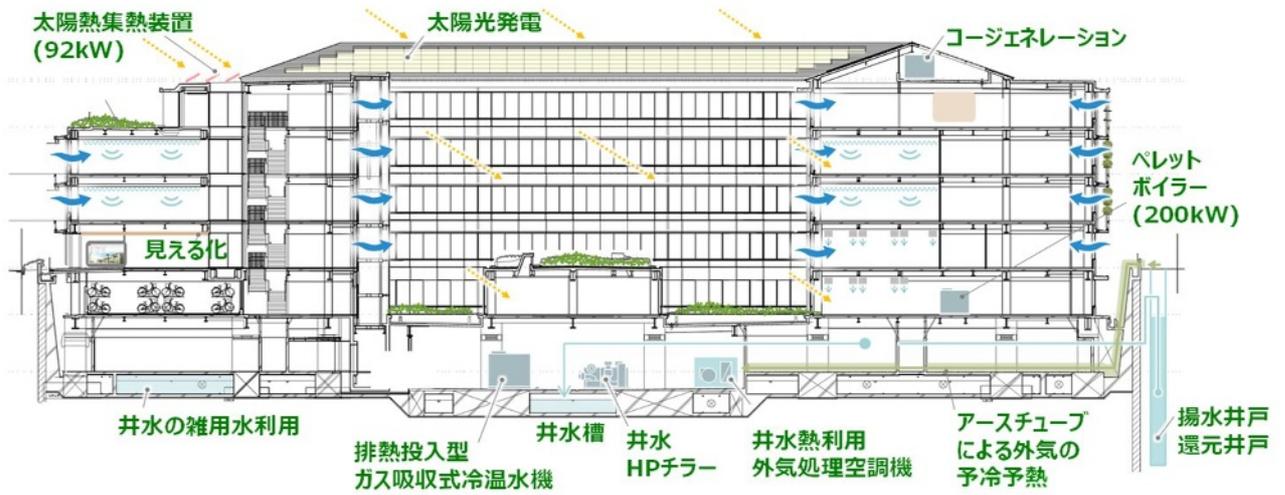
快適な室内環境を保ちながら、高断熱化・日射遮蔽、自然エネルギー利用、高効率設備により、できる限りの省エネルギーに努め、太陽光発電等によりエネルギーを創ることで、年間で消費する建築物のエネルギー量が大幅に削減されている建築物のこと。本取組のZEB Readyは、創エネを除き、基準値から50%以上の省エネを達成した建築物を指す。

（参考3）京都市役所分庁舎の建物概要

用途	市庁舎（事務所）
階数	地下2階、地上4階（地下階柱頭免震）
建築面積	4,261.02 m ²
延床面積	24,060.54 m ²
主な熱源	排熱投入型ガス吸収式冷温水機（240RT） ガス吸収式冷温水機（240RT） 井水ヒートポンプチラー（100RT） コージェネレーション（35kW） 太陽熱集熱器（92kW） ペレットボイラー（200kW）
主な空調	外調機、ファンコイル、放射空調
太陽光発電	200kW

(参考4) 取り組んだ省エネ対策の概要

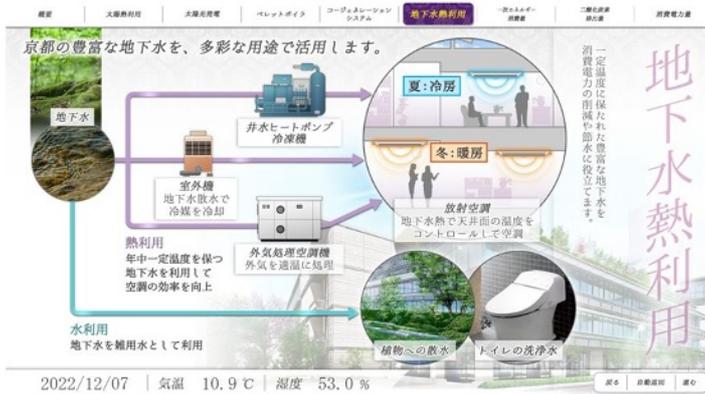
(1) 地産エネルギーを活用する環境配慮技術



京都の豊富な井水や木材、太陽熱を最大限活用し、地産エネルギーを利用した省エネ熱源システムを構築しました。



屋上には最大限の太陽光発電パネルを設置し、創エネを行いました。また、太陽光発電パネルや太陽熱集熱器は、景観に配慮した色合いとしました。



■KYOTO-STYLE ZEBの見える化

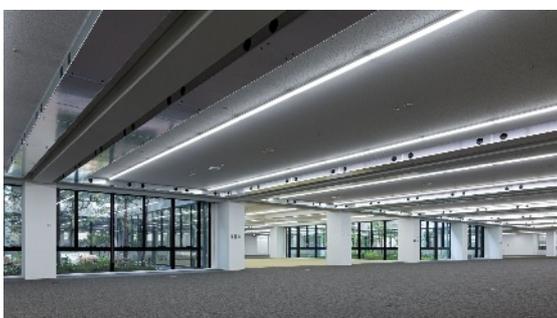
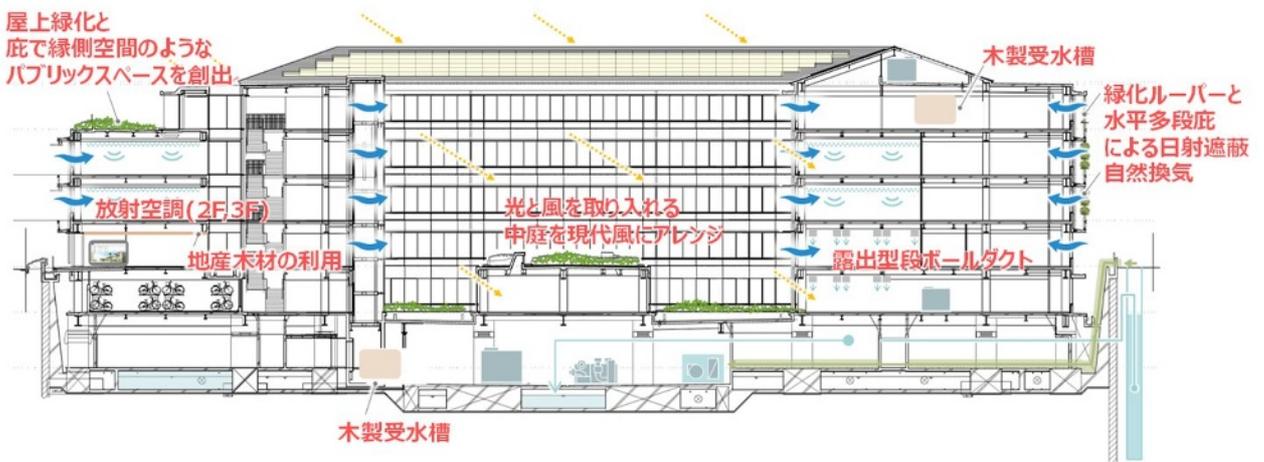
市民スペースのエントランスに設置した大型モニターでエネルギーを表示し、広く一般市民の皆様や職員に対して、KYOTO-STYLE ZEBの取組を見える化し、省エネに対する行動変容を促す仕組みを取り入れました。



■地中熱利用

ドライエリアをアースチューブとして利用し、地中熱を空調用外気の子冷予熱に利用し、省エネを図りました。

(2) 景観と調和する環境配慮技術



■露出型段ボールダクト

放射空調や露出型段ボールダクトにより天井内をダクトレス化し、建物高さの抑制と省エネを両立しました。



■木製受水槽

木製受水槽や内装材に地産木材を利用するとともに、建設時のCO₂排出抑制にも寄与しました。



■ 庇、屋上緑化

庇や中庭等の京都の伝統的な環境デザイン手法を現代風にアレンジし、独創的でありながら京都らしい意匠を実現しました。



■ 中庭

中庭や免震クリアランス確保のためのドライエリアを利用し、地下にも光と風を取り入れました。